愛媛県県民文化会館

EHIME PREFECTURAL CONVENTION HALL

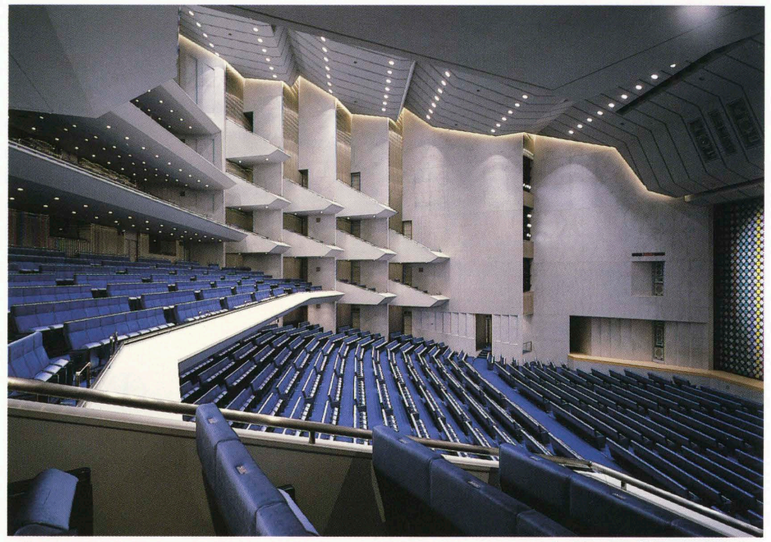
所在地	愛媛県松山市道後町２－５－１	location	Matsuyama City, Ehime Prefecture
建築主	愛媛県	owner	Ehime Prefecture
設計者	株式会社丹下健三・都市・建築設計研究所	architects	Kenzo Tange and URTEC
施工者	鹿島建設株式会社	contractors	Kajima Corporation
	西松建設株式会社		Nishimatsu Construction Co., Ltd.
	株式会社野間工務店		Noma Komuten Co., Ltd.
	株式会社二神組		Futagami-Gumi Co., Ltd.
竣工	1986年３月25日	completion date	March, 1986

南西よりの全景　General view from the southwest.

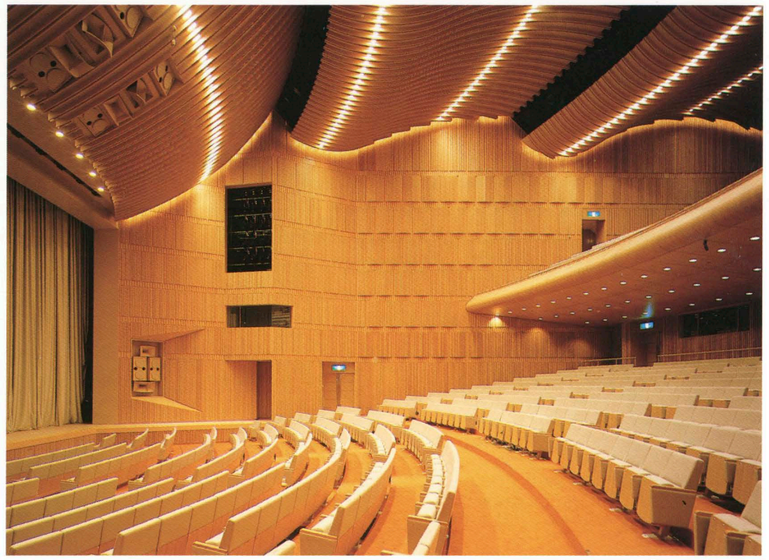
県民広場と正面エントランス　Plaza and main entrance.

県民プラザ　Prefectural Civic Plaza.

サブホール入口より県民プラザを見る　Entrance hall for sub-auditorium.



メインホール　Main auditorium.



サブホール　Sub-auditorium.

建築概要

敷地面積　23,581 m²
建築面積　11,336 m²
延床面積　41,651 m²
構造＝鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
規模＝地下2階　地上5階　塔屋2階

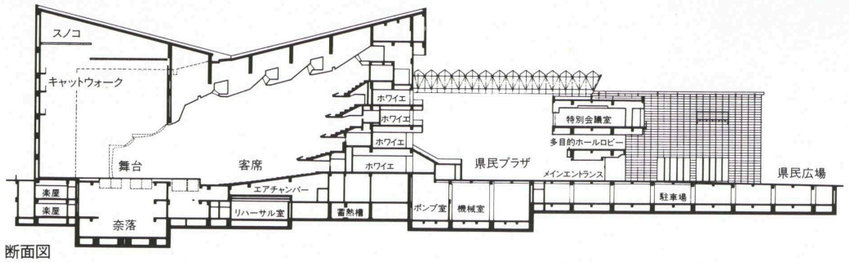
仕上げ概要

外部仕上げ　メインホール棟　屋根：断熱材㋐25㎜シート防水　サブホール・多目的ホール棟　屋根：アスファルト防水軽量コンクリート押え断熱ブロック敷き　外壁：花崗岩㋐30㎜バーナーグラニットタイル　建具：アルミサッシュ・ステンレスサッシュHL一部鏡面　トップライト：アルミサッシュ・複層ガラス
内部仕上げ　県民プラザ　床：花崗岩㋐30㎜水磨き・床暖房　壁：花崗岩㋐30㎜水磨きバーナー一部大理石㋐25㎜本磨き　天井：トップライト　アルミサッシュ・複層ガラス・アルミルーバー　メインホール　床：カーペット　壁：大理石㋐25㎜水磨き　吸音壁：ステンレスパイプHL　天井：PB㋐9㎜二重貼りEP　サブホール　床：カーペット　壁：エースライト　ナラツキ板練付け胡粉塗込み　天井：PB二重貼りダイノックシート・リブスチール特殊塗装　舞台(メイン・サブ共)　床：檜集成材㋐30㎜　壁：木毛板㋐50㎜　天井：すのこ　多目的ホール　床：カーペット　壁：PBガラスクロスEP一部大理石・鏡　吸音壁：ステンレス角パイプ鏡面　天井：岩綿吸音板㋐12㎜直貼り　特別会議室　床：カーペット　壁：スチールパンチングパネルクロス　天井：岩綿吸音板㋐19㎜直貼り

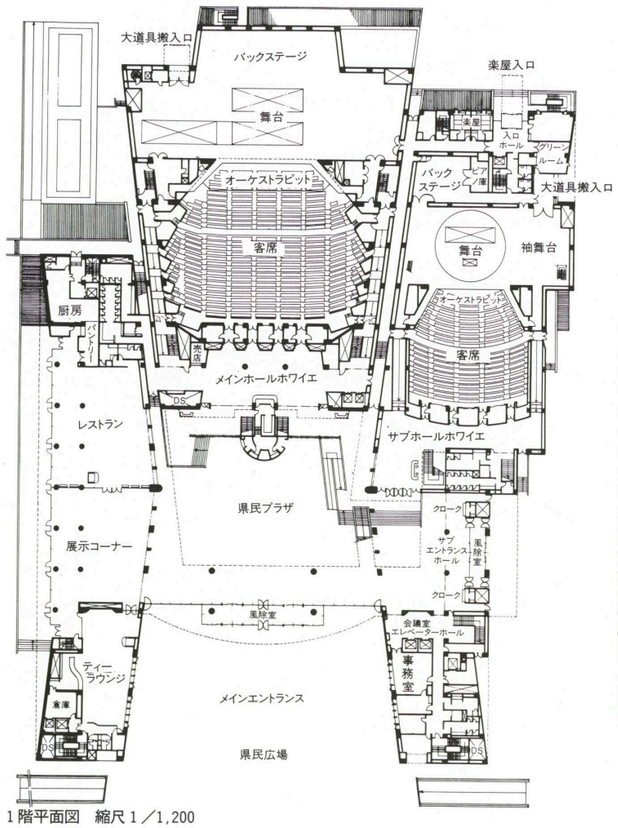
設備概要

空調　熱源：空気熱源冷温水同時取出型ヒートポンプ　方式：ダクト方式一部VAV方式一部ファンコイルダクト方式
衛生　給水：上水・雑用水の2系統　重力給水方式　給湯：セントラル給湯　排水：分流方式
消火　屋内消火栓・屋外消化栓・スプリンクラー消火・泡消火・ハロン消火・ドレンチャー消火

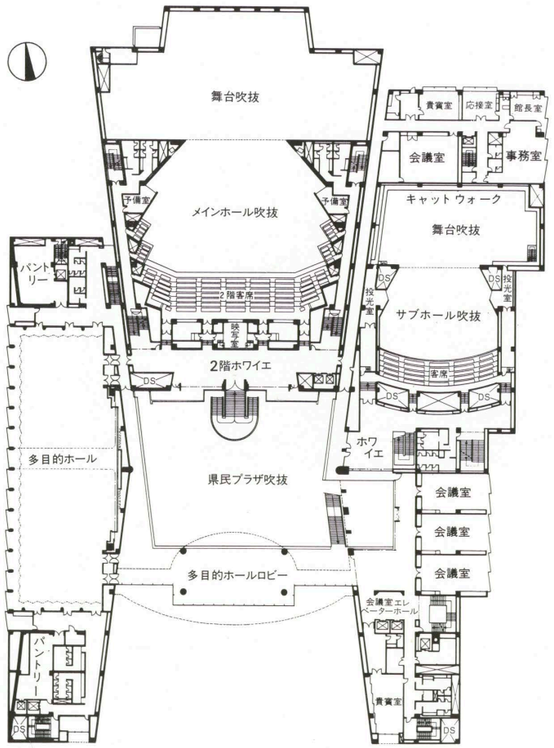
多目的ホール　Multipurpose hall.



断面図



1階平面図　縮尺 1／1,200



2階平面図

[選評]

紙野桂人・佐野正一・窪田 祐

愛媛県県民文化会館は，愛媛県が，文化的伝統をもつ松山と都市温泉となった隣接の道後温泉とを有機的に関連させながら，松山市をコンベンション機能都市として活性化させようとの発想から，文化・芸術・情報交流の複合施設として企画したものである．

松山市と道後温泉は，いまでは同一の市域となっているが，娯楽，宿泊施設のある温泉街と情報交流施設としての文化会館との連動を図るための最適の場所として，松山市街から道後温泉への接点にあった農業試験所の跡地を選んだ．

会館は，四方道路に囲まれ，ゆったりとした環境の整形の敷地に，大ホール，サブホール，多目的ホール(宴会場)，国際会議場，レストランなどとそれらのための充実した付属諸室を設けているが，正面エントランスを入った位置に「県民プラザ」と呼称する約40m平方で5階吹抜け空間の壮大なアトリウムを置き，そこから各ホールを結んだ明快なゾーニングが建築計画の基本となっている．

このプラザは，全館使用時にも，多人数の集散を円滑に処理する場であり，また，開演前後の華やかな雰囲気を演出する場となっているが，天井を全面複層ガラスのトップライトとすることによって，県民の誰でもが親しみやすい開かれた準外部空間として機能している．

3,000人収容のメインホールは，日本国内でも有数の規模の多目的ホールであるが，文化，芸術的な使用には，過大の感がある．しかし，地方における希少な大規模集会施設として，広域規模の集会などに予想を上回って活発に利用されている．多人数収容のホールは，音響などの機能の最善化に困難が多いものであるが，舞台からの視距離を縮めて臨場感を盛り上げ，また，音響条件の最適化のため，4層のワインヤード式のバルコニー席を設け，それがバックの吸音壁のステンレスグリルとマッチし，ホール内観の華やかさと機能の向上に見事な効果を出している．

1,000席のサブホールは，大ホールと同様な多目的ホールであるが，リブ付きの木質仕上げの壁と愛媛県の気候風土をイメージしたオレンジ調の座席とによって，大ホールとは趣を異にした落ち着いた空間となっている．

建物の外観は，四面とも各壁面を単彩で平滑な花崗石乾式貼りとしているが，装飾的な豪華な表現を抑え，建物全体のスケール感と機能性を素直に出した造形となっている，

外壁の石貼りは面積が多大であるため，韓国産のものを使用しているが，地場産業である瀬戸内海の石材を使用しなかったのは惜しまれる．

企画および設計計画に十分な期間をとり，工事は，1983年から3年間の長期に渡って施工されたが，その間，副知事を長とする建設協議会を設置し，建築主，設計者，施工者の密接な連携のもとに進められ，建築主の明確な企画意図を受けて達成した設計，施工の品質は最高のものである．

文化的財産として後世に残るものをという意図のもとに，内外装に最高の素材を選択し，さらに，先端的諸設備を充実させた先取性を高く評価するものであるが，今後とも時代の変化，技術の進化に対応する会館の諸機能の充実，補完に最善をつくして行くことを期待したい．

[REVIEW]

Keijin Kamino, Shoichi Sano, and Yu Kubota

The basic architectural planning of the center, which is set on an ample site in a fine environment, employs lucid zoning centering on a large (40 by 40 meters, open to a height of 5 stories) Prefectural Civic Plaza immediately inside the main entrance. This space connects with the other major zones, including main auditorium, sub-auditorium, multipurpose hall (banquets and parties), international conference hall, and restaurant, and their various ancillary spaces.

Designed both to facilitate smooth movement among the large numbers of people who throng it when the center is in use and to contribute to brilliance of mood before and after performances in the auditorium, the Civic Plaza has already become familiar to the citizens of the prefecture. This familiarity is intensified by the semioutdoor feeling imparted to the space by its multilevel, glass-skylight ceiling.

Although the main aduitorium, which, seating 3,000, is among the largest multipurpose halls in the country, seems too big for cultural and artistic purposes, because of the paucity of assembly spaces on this scale outside major urban centers, it is being put to very wide use for many different kinds of meetings.

In spite of the problems involved in acoustics in large spaces, a number of steps have been taken to make the main auditorium both handsome and functionally very effective. For instance, for the sake of intimacy, sight lines to the stage have been shortened. In addition, the four balconies installed to improve sound quality harmonize beautifully with the stainless-steel grille acoustical wall in the rear.

Though it too is multipurpose in nature, the sub-auditorium differs in mood from the main auditorium. It uses ribbed wood panelling and calm orange tones evocative of the climate and scenery of Ehime Prefecture.

The largely unadorned exterior expresses overall scale and spatial functions in its forms and is clad in smooth, monochrome, dry-installed granite.